

はづき
葉月

第727号

よ な か た

目次

| | |
|-------------|-----|
| 沖ノ島灯台 | 3・2 |
| お知らせ・造営日記 | 4 |
| 神宮神宝より紐解く | 5 |
| 神宝館だより・みどころ | 6 |
| 宗像大社歌会詠草 | 7 |
| 御造営奉賛者御芳名 | 7 |

7 7 6 5 4 3・2

よなまた。日本の国旗「日の丸」の

歴史をご存じだろうか▼その起源は古く、平安時代末期の源平合戦の頃には、扇や旗のデザインとして登場する。また、江戸時代初期になると外国との貿易に用いられた御朱印船の「船印」として使用された。そして明治三年、太政官布告商船規則により、日の丸(日章旗)が日本国家を表徴する唯一の国標として定められた。然し乍ら、日本の国旗は日章旗であるという事は、法律上明文規定されておらず、戦前から日の丸と君が代の地位は国民の愛国心に委ねられていた。多くの国民は、慣習的に日の丸・君が代を国旗国歌として受入れていたが、一部で反対運動や教育現場等で混乱を招いていた為、平成十一年「国旗及び国歌に関する法律」が制定された▼日本の国旗のデザインは素直で清らかな心(白)と「日出る国」の象徴である太陽(紅)を表現したものである。国旗や国歌は、それぞれの国の歴史や文化、宗教を象徴するものである。五十七年ぶりに東京で開催されるオリンピック・パラリンピックでは、各国の国旗が掲揚され、国歌が演奏される。お互いの国の歴史・文化に思いを馳せ、尊重し合える大会になればいい。(武)



3 1
4 2



- ① 沖ノ島灯台 国産一等レンズ(フレネルレンズ)
- ② 一ノ岳に設置されている沖ノ島灯台(現在)
- ③ 犬吠埼灯台(千葉県銚子市)

沖ノ島灯台

— 玄界灘の道しるべ —

当社沖津宮が鎮座する沖ノ島には「沖ノ島灯台」が建っており、筑前大島灯台、玄海島灯台とともに大型沿岸灯台に分類される。(福岡海上保安部交通課により管理)灯台が設置

されたのは、日本海海戦直前の明治三十八年(一九〇五年)四月のことで大正十年(一九二一年)に改修された。この灯台は沖ノ島の主峰・

一ノ岳に建つ白塔形の灯台で、灯火標高は二五三呎で、日本では六番目の高さである。

地上から頂部の高さは二十呎、灯質は単閃白赤互光で毎三十秒に白1閃光・赤1閃光で稼働しており、実効光度は白光三七〇〇カンデラ 赤光三三〇〇カンデラとなり光達距離は十七海里(三十一キロ)である。

灯台のレンズは大きさによって一等から六等まで七つに区分されており、沖ノ島灯台の特徴は初めて国産の一等フレネルレンズ(通常のレンズを同心円状の領域に分割し厚みを減

らしたレンズで、のこぎり状の断面を持つが設置されたことであり、平成十九年(二〇〇七年)まで使用された。日本の灯台のレンズは欧州製のレンズが多い中、沖ノ島灯台のレンズは日本製であり(材料はアメリカから輸入)、重量が約1.5トンと重いため、水銀層に浮かべて回転させ発光していた。

このレンズは平成十九年三月に沖ノ島灯台の太陽電池化に伴う工事で取り外され、その資料の貴重性から後世に残すために千葉県銚子市の犬吠埼灯台資料展示館に展示されている。

沖ノ島近海での日本海海戦に勝利した東郷平八郎は「神光照海」として、宗像の神々に感謝し戦艦・三笠の羅針儀を当社に奉納している。沖ノ島は玄界灘における絶海の孤島にある。荒れ狂う玄界灘で、水平線にふと現れるその姿に神々しさを感じ人々は敬い祀ってきた。

島そのものをご神体として崇められる沖ノ島は今も昔も変わらずに海の民の道しるべとして海を照らし、心の安らぎを与えている。

■ 犬吠埼灯台資料展示館

〒二八八―〇〇二二

千葉県銚子市犬吠埼九五七六

■ 公益社団法人 燈光会

〒一〇五―〇〇〇三

東京都港区西新橋一―一四―九

西新橋ビル三階



燈光会HP

番組のお知らせ

【世界遺産宗像大社
神社イノベーション―常若とは何か―】

八月十一日(水)午後七時 RKB毎日放送にて



(左より)西内ひろ・平祐奈・篠田麻里子・運上弘菜

平成ノ大造営の第三次事業の一大事業で六月に竣工した、祈願殿。設計概念の中心には当社の高宮祭場などにみられる古代祭祀の再現を意識した建物となっている。

神社は「不易流行」という言葉が表すよう

にその本質は変えず、絶えず変化する社会の様相に対応し続け、文化を紡いできた。つまり現代でいう「イノベーション」を絶えず繰り返してきたのである。これは神道の言葉で「常若」とも表現できる。

昨年、國學院大學神道文化学部を卒業した平祐奈さんをメインリポーターに据え、今のSDGsの考え方に繋がるこの「常若」という言葉をキーワードに謎解き方式で進んでいく番組となっている。是非、ご覧ください。



祈願殿神殿(神籬・磐座祭場)にてスタジオ収録の様子

時満ちて
道ひらく **造営日記** ⑤①

辺津宮末社保存修理工事

昨年度より、国庫補助事業として辺津宮本殿周囲に鎮座する末社の修復を進めている。本年度は、津加計志神社(四道福松神社、祓方遠賀堺神社、山口御口代神社、須多田神社、加津浦神社 合祀)が対象となり、屋根替え、木材腐朽部分の取替え等が行われる。

工事に先立ち、七月一日浄蘭の中、仮殿遷座祭が斎行され、御祭神には昨年修復を終えた仮宮に御遷りいただいた。

工事終了は九月中旬を予定している。





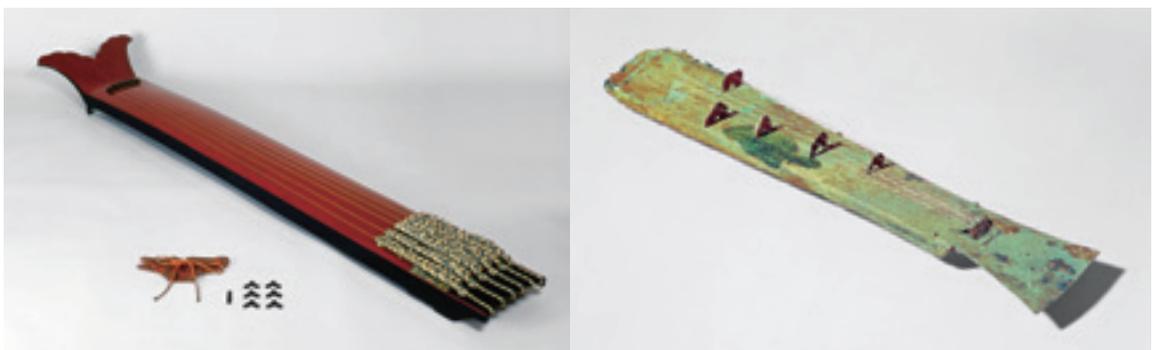
鶏尾御琴

御装束神宝の中には音を奏でる御料があります。「鶏尾御琴」は唯一神様の楽器として奉獻され、それはまた我が国固有の「和琴」の形態を今に伝えています。

「和琴」は奈良時代までは「やまとごと」又は「あずまごと」（東琴、吾妻琴）と呼ばれ、これらは現在の和琴の祖型である日本固有の琴箏類の絃楽器を意味します。『豊受皇太后神御鎮座本紀』には「天香弓興並叩弦云々」とあり、和琴即ち絃楽器の起源とする伝説があります。この事をし和琴或いは絃楽器がこれらより発達したとは一概に云い難くありますが、楽器を奏でるに類す

る行為が行われていた事を表す一節ではあります。古代の琴は静岡県登呂遺跡（弥生時代後期）出土の板作りの琴などからその凡その形態を伺うことが出来ませんが、これらには和琴の特徴である尾端の六つ凸起、六絃制、葦津緒など、後に制度化された形状の兆しと見てとれる部分を備えています。古墳時代の中期以降には裏板付きの槽を持つ五絃制の楽器が存在し始め、大陸の高度な文化が我が国に流入し次第に新しい型に移行したと思われます。この頃には和琴特有の特殊な絃の留め方である「葦津緒」も新羅琴から由来して、我が国固有の和琴は五絃から六絃に改制されるなど飛躍的な発展を遂げる事となります。平安時代に楽器としての規格が定まったとされる「和琴」は「御琴」「神琴」「小琴」

などの美称があり、琴の字を用いているにかかわらず可動の柱を使用する点で箏に近く、和琴全体の形状も箏に似ていて槽は桐材で作られ、その上面に絹の六絃を張り備えます。さて現在の鶏尾御琴の構造は先ほどの和琴に鶏尾が接続した形になっています。『延喜太神宮式』（九二七）には「頭鶏尾廣一尺八寸」、また『長曆送官符』（一〇三八）では「鶏尾廣一尺八寸」とあり鶏尾の位置が太神宮式では首部に接続するとも解せませんが、長曆官符にはその事は記されてはいません。しかし福島県原山一号墳出土埴輪や沖ノ島神宝の金銅製琴等では鶏尾に似た形状のものが琴の首部に位置しています。現行の御料は皇大神宮と豊受大神宮に各一面奉獻され、仕様は二面ともに同一で鶏尾を首部に接続しています。



鶏尾御琴 神宮司庁提供

沖ノ島神宝・金銅製雛形五絃琴

神宝館だより 52

八万点ノ国宝収蔵

仁保盛安書状

古文書に見える贈答(大宮司家の八朔)

「八朔」とは陰暦八月一日のこと。田実の節供、田物祝などともいい、主家や知人と贈答をして祝う行事である。その起源は明らかでないが、鎌倉時代にはすでに八朔に贈答を行う習慣があったとされる。武家では特に室町時代以降、主従関係を強めるための行事として重要視され、室



町幕府には八朔奉行または御憑奉行といった、この行事を管掌する役職が置かれていた。宗像氏への書状にも、

八朔の贈答を行ったことがわかる記述がある。筑前の秋月種照からの書状では、宗像氏からの八朔祝いへの返礼品として、大刀一腰と、黒毛馬一匹を贈ったとある。さて、この八月一日に送られた書状に、少し珍しいものが贈物として記されているものがある。史料は仁保盛安書状である。仁保氏は周防国吉敷郡仁保庄(山口市仁保付近)を本拠とし、室町時代には大内氏の代官を勤めた。盛安も大内教弘の代官として活動している。

書状では、盛安が宗像氏から「生鼠」、「熨子」を贈られたことについて御礼を述べている。「生鼠」はナマコのこと。「熨子」は熨斗鮑のことである。特に鮑は、江戸時代の史料に名物として「鐘崎熨斗鮑」と見え、鐘崎の名産品であったことがうかがえる。あるいは盛安に贈られた頃、つまり室町時代から同地の名産品だったのかもしれない。地域の特産品を贈るといいう行為から、地域の長く変わらぬ特徴が見えておもしろい。(津)

みこころ

ジメジメとした梅雨も明け、猛暑日が続いております。マスク着用による熱中症には十分気を付けて下さい▼七月三十一日、夏越の大祓式が執り行われました。大祓は、人形を用いて半年間の罪・穢を祓い、疫病退散・無病息災を祈念する神事です。又、当社では、毎日の日供祭に併せて疫病鎮静祈願祭を斎行しております。一日でも早く、新型コロナウイルス感染症が終息し、元通りの日常生活が送れるようになる事を願うばかりです▼今月の七日には、中津宮において七夕祭が斎行されます。中津宮末社の「織女神社」と「牽牛神社」が境内を流れる「天の川」を挟むようにお祀りされており、織姫と彦星が年に一度、天の川を渡って出会う、ロマンティックなお祭りです。このような状況ですが、皆様ぜひ！大島に渡り、今年の夏の思い出を作ってみてはいかがでしょうか？(濱)

第720回

宗像大社歌会詠草

■大西晶子選 ■毎月25日メロ

煌めけり大股骨のステンレス十七で嫁したる母の田植歌

早川 祥三

亡くなられた母上の骨上げのシーンか。作者にしか分からない歌になっているので、読者に分かるように場を詠んで。

カナダから帰って孫は宗像へ来春からは教壇に立つ

秋吉 嘉範

お孫さんが地元に戻って来て教師としてスタートすることを淡淡と述べられているが、その中に喜びの気持ちが籠っている。

身長の半分位のランドセル背負ふあの子は一年生か

佐々木和彦

小学一年生のランドセルは大きく見える。「身長の半分位」に作者の驚きが表われている。

いつ来ても箒目清き原社さびしさに耽けりたいたきの木蔭

山崎 公俊

清らかに清掃された的原社。「さびしさに耽りたい」は作者の個性の表れでこの歌の魅力だ。

わが園のバラの香りに包まれて優雅に過ごす日曜の午後

鈴木 裕子

薔薇の香が優雅。初句「わが園」は公園のような庭園を想像するので「わが庭」、四句は「紅茶をいれる」など優雅な行為にするとベター。

梅雨空の晴れ間の青い青い空憂える吾には眩しすぎて

小沢かゆこ

心配事のある作者にはまぶしすぎる青空。青い青いと重ねたのは悩みを持つ作者の心情とあまりかけ離れた青空に衝撃を受けたからだろう。

四ヶ所の通院日だけの予定表空きの広さを歩数でうめる

吉崎美沙子

コロナ禍で外出自粛の日々。その合間をウォーキングの歩数を書き込んでいる作者。今ならではの歌。

いつになく里近くで鳴くホトトギス警告ならん福音ならん

本田エリナ

ホトトギスは夜遅くや早朝にも鳴き、さまざまに詠まれたり解釈されたりしている。対句を使った表現が良い。

微笑んで「おかばちゃん」と声をかけ迷い箸する在りし日の母

東 雅子

「おかばちゃん」という呼び方がやさしく母上の性格が分かりそうだ。過去のことなので四句（迷い箸した）に。

◆選者詠

八月の草生に咲き出で姫御子のやうなる浄さ高砂百合は

ダ・ヴィンチの「受胎告知」に描かるる百合はなに百合ルーペで調ぶ

第690回 俳句

さやけきは額紫陽花の雨後の星

早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名

(令和三年六月
順不同・敬称略)

| | | | | | | |
|---------|-------|----|-----|--------|----|-----|
| 福岡市 | 西中洲 | 雲母 | 福津市 | 松本 | 勝 | |
| 一〇、〇〇〇円 | | | 目黒区 | 針谷 | 律子 | |
| 日立市 | 長山 | 右樹 | 横浜市 | 羽賀 | 洋子 | |
| 五、〇〇〇円 | | | 横浜市 | 羽賀 | 護 | |
| 飯塚市 | 鳥飼 | 恵美 | 大阪市 | 三、〇〇〇円 | 福地 | 昭義 |
| 大阪市 | 玉置 | 直美 | 朝倉市 | 二、〇〇〇円 | 矢野 | 宙之 |
| 大牟田市 | 久富美奈子 | | 大阪市 | | 小川 | 麻耶 |
| 遠賀郡 | 大山加代子 | | 横浜市 | | 加藤 | 恵利子 |
| 遠賀郡 | 岩村 | 寛 | | | | |
| 北九州市 | 成重 | 糸津 | | | | |

お知らせ

八月十五日の宗像護国神社戦没者慰霊祭は、社会情勢を鑑み、千灯明行事は中止させて頂き、午後五時より祭典のみ執り行います。

何卒、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

